

(別記)

愛別町 水田フル活用ビジョン

(平成30年度)

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

愛別町は、耕地面積の約9割が水田であり、うるち・もち・酒造好適米の主食用米及び飼料用米（玄米・もみ米サイレージ）・ホールクroppサイレージ用稲・加工用米の水稲を中心とした生産調整と水田を活用とした土地利用型作物（麦・大豆・飼料作物・そば等）・野菜の生産を行っている。

地域課題として、国営緊急農地再編整備事業による大規模なほ場整備として、約1,300ヘクタールの工事が予定されており、本年は、工事2年目で90ヘクタール超の本格的な工事が実施される予定であり、今後約10年間にわたり、約100～150ヘクタールの工事が予定されていることから、大規模化に伴う、作付体系及び作業体系の確立が急務であるとともに、さらに農地の流動化が進むことが予測されることから、農地中間管理機構を活用しながら、中心となる担い手の育成が必要である。

2 作物ごとの取組方針等

町内（出作面積を含む。）の約1,500ヘクタールの水田について、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

平成29年産米については、長年継続して実施してきた売れる米づくりのための愛別町米麦生産振興協議会で定める栽培基準の徹底とYes!clean、特別栽培等の作付面積の拡大と低タンパク・高整粒の高品位米の生産が、上川管内のゆめぴりかコンテストでの最優秀賞の受賞など、結果として評価されたことから、この取り組みの継続による産地としての地位の確保を図る。また、需要の動向や集荷団体等の意向を勘案しつつ、様々なニーズに対応した「うるち米・もち米・酒造好適米の生産」と安定取引を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米の生産に早くから取組み、WCS用稲とともに道内の畜産農家に広域的な供給を行っていることから、需要に応じた安定した生産が求められている。そのためにも、国営農地緊急再編整備事業によるほ場整備において、工事によって作付ができないほ場が出てくることから、作付調整等により、生産面積の確保を行うとともに、多収性品種の導入や団地化による作業効率の向上を推進する。

また、畜産農家から需要のある「もみ米サイレージ」化を推進する。

イ 米粉用米

現在、米粉用米の生産を行っていないが、実需者からの要望があった場合は、生産の振興を推進する。

ウ 新市場開拓用米

現在、海外への輸出などの新市場開拓の取組みを行っていないが、農業者や実需者の取組みとして要望があった場合は、生産の振興を図る。

エ WCS用稲

飼料用米とともに需要のあるWCS用稲についても、需要に応じた安定した生産が必要になってくることから、作付調整等により、生産面積の確保を行い、多収性品種の導入や団地化による作業効率の向上を推進する。

オ 加工用米

実需者のニーズに応じた生産の推進を図る。また、国営緊急農地再編整備事業による圃場整備により、作付面積の増減が予測されることから、飼料用米やWCS用稲とあわせた作付の調整を行う。

カ 備蓄用米

現在、備蓄用米に取り組んでいないが、集荷団体等での取り組み状況に応じた推進を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

ア 麦

ニーズに合わせた秋小麦・春小麦の生産振興を図るとともに、排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用を推進する。

イ 大豆

ニーズに合わせた白大豆・青大豆・黒大豆の生産振興を図るとともに、排水対策、土壌診断に基づく堆肥の施用を推進する。

ウ 飼料作物

牧草とデントコーンの生産が主体となっているが、飼料米等とあわせて需要のあるエン麦サイレージ・大豆サイレージを含め、畜産農家と連携した生産の振興を図る。

(4) そば、なたね

ア そば

高品位のそばの生産を図るため、排水対策や耕うん同時畝たて播種、土壌診断に基づく堆肥の施用などの技術対策を講じるとともに、ニーズに合わせた生産の振興を図る。

イ なたね

現在、なたねの栽培は行われていないが、作付の要望があった場合は生産の振興を図る。

(5) 高収益作物（野菜等）

「きゅうり・米なす・トマト・ミニトマト・ビーツ」を重点振興野菜、「アスパラ・かぼちゃ・ねぎ」を振興野菜、「サヤインゲン・ししとう・スイートコーン・生食用ばれいしょ・春菊・オクラ・わらび・メロン・枝豆・」を奨励野菜と設定し、花き（トルコキキョウ・ソリダコ）とあわせた生産の振興を図る。

(6) 畑地化の推進

畑地化の要望や要件を満たす農地が少ないことから、積極的な推進は行わないこととするが、要望がある場合については、十分な協議を行い、畑地化の判断を行う。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成29年度 作付面積 (ha)	平成30年度 作付予定面積 (ha)	平成32年度 作付目標面積 (ha)
主食用米	840.90	843.7	843.7
うるち	526.85	545.35	545.35
もち	288.30	262.70	262.70
酒造好適米	25.75	25.75	25.75
飼料用米	106.65	119.83	120.00
玄米	21.65	27.49	28.00
もみサイレージ	85.00	92.37	92.00
米粉用米	—	—	—
新市場開拓用米	—	—	—
WCS用稲	44.49	35.71	36.00
加工用米	80.82	37.90	37.90
備蓄用米	—	—	—
麦	16.98	21.34	21.34
大豆	51.81	43.36	46.00
飼料作物	190.43	171.50	150.41
そば	81.85	67.79	60.00
なたね	—	—	—
その他地域振興作物			
野菜	15.44	15.70	15.74
小豆	3.67	2.98	3.00
きび	13.12	9.22	10.00
その他	16.16	12.56	10.00

圃場整備

H29実績 9.77ha

H30予定 91.24ha

H32目標 120.00ha

4 課題解決に向けた取り組み及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値 (H29)	目標値 (H32)
1	飼料用米 WCS用稲	新規需要米生産 量確保支援	作付面積 供給量 収穫量の向上 労働時間の低減	151.15ha 1540.3t (玄米) 530kg (玄米) 4.5時間	156.0ha 1551.1t (玄米) 561kg (玄米) 4.1時間
2	重点振興野菜	高収益作物生産 助成	野菜の作付	15.44ha	15.74ha
3	振興野菜		重点振興野菜	2.36ha	3.25ha
4	奨励野菜		振興野菜 奨励野菜	9.77ha 3.30ha	11.43ha 1.06ha
5	重点振興野菜 振興野菜	有機堆肥利用促 進支援	水田への堆肥の投入面積 販売額の増加	2.73ha 103百万円	4.00ha 108百万円
6	重点振興野菜 振興野菜 奨励野菜・花き		水田への堆肥の投入面積 販売額の増加	7.94ha 103百万円	8.50ha 108百万円
7	奨励野菜・花き 小麦・大豆・そ ば・小豆・きび・ 菜豆		水田への堆肥の投入面積 収量(単収)の向上	20.61ha 100%	28.00ha 105%
8	小豆・きび・菜 豆・奨励野菜・ 花き	地域振興作物作 付助成	作付面積の確保 収量(単収)の向上	19.9ha 100%	21.0ha 105%
9	そば	そば作付助成	作付面積の確保 生産量(単収)の向上	81.85ha 71kg/10a	60.0ha 85kg/10a
10	小麦・大豆・飼 料作物・小豆・ きび・そば・飼 料用米・WCS 用稲	コスト低減支援	団地化比率 対象作物の団地化面積 作業時間の削減	16.33% 244.43ha 100%	21.00% 310.00ha 80%
11	小麦・大豆・重 点振興野菜・振 興野菜・奨励野 菜・花き	担い手育成支援	担い手の作付面積	69.0ha	82.0ha
12	飼料用米	耕畜連携助成	同時作業による収穫面 積 農業使用量の削減	0.0ha 100%	8.0ha 40%

5 産地交付金の活用方法の明細
別紙のとおり